ありがとうのプロフェッショナルへ。
兵庫大学

掲載日 2018年11月13日（火） 媒体 神戸新聞/朝刊 掲載面 わがまち27

学生が取り組み発表

地域活性化や課題解決

兵庫大学（加古川市）の学生が、地域活性化や課題解決のための取り組みを発表する「第1回PBLグランプリ」が10日、同大学であった。8グループが多彩な活動内容を発表。学外の審査員による審査があり、グランプリに認知症の人らと地域住民の交流を促す「キャンパスカフェなごみ」が輝いた。（小森有喜）

兵庫大で「PBLグランプリ」

PBLは「Project-Based Learning（課題解決型学習）」の略。サークルや学科の有志でつくる14グループが応募し、書類選考を通過した8グループ約40人が、活動内容を発表した。

グランプリの「キャンパスカフェなごみ」は、看護学科や社会福祉学科の学生が取り組んだ。「認知症の人も暮らしやすいまち」を目指し、認知症の人やその家族と地域住民らを招いて2カ月に1回程度、大学でカフェを開いている。

上地域の課題解決を目指した活動を発表する学生ら＝いずれも加古川市平岡町新在家
下グランプリを獲得した「キャンパスカフェなごみ」の学生ら

8グループ 交流カフェや健康体操教室など

「心を込めて本格的なカフェを」とコーヒーは豆をいるところから始め、カップも学生たちが手作りしたものを使っている。7月の西日本豪雨で大きな被害を受けた岡山県真備町にも赴いて高齢者向けのカフェを開き、好評だったという。

発表を担当した看護学科2年の松浦大和さん(20)は「お年寄りからいろんなお話が聞けるこの活動が好きだし、これからも地域のために頑張りたい」と笑顔だった。

会場ではこのほか、骨粗しょう症など高齢者の運動器障害「ロコモティブ・シンドローム」を防ぐため、健康体操の教室を開いているサークル「ロコモ研究会」も発表。今月、加古川市加古川町の高齢者ら8人とともに神戸市の旗振山を登った様子を紹介した。

また、栄養マネジメント学科の学生らは子ども食堂「もぐもぐクラブ」の活動を発表。全国的に子どもの貧困率や孤食率が高まっていることに着目し、月に1回程度、同市平岡町で開いている。小中学生と一緒に調理し、栄養バランスのよい食事の作り方を学んでもらうことも目的にしている。